



第48回九州インタークラブ競技大会

競技報告 (2018/ 10/10)

写真と記事 : M. Kikutake

「福岡雷山GC」(福岡県南部) が2年ぶり2度目の優勝
ベストグロス賞は1アンダーの71で竹本健太(福岡雷山)



第48回九州インタークラブ競技は10月10日、佐賀県多久市の佐賀クラシックゴルフ倶楽部(6683㌦、パー72)で決勝大会が開かれ、トータルで27オーバー、387のスコアの福岡雷山ゴルフ倶楽部(福岡県南部)が2位の宮崎レイクサイドゴルフ倶楽部(宮崎県)に1打差をつけて2年ぶり2度目の優勝を飾った。さらに3打差の3位は司ロイヤルゴルフクラブ(熊本県)だった。

出場選手中のベストスコアに贈られるベストグロス賞は1アンダーの71をマークした36歳の竹本健太(福岡雷山)が初めて獲得した。

決勝大会は24チームが出場

「大博多CC」が福岡県南部予選で敗退の波乱も

九州ゴルフ連盟(GUK)主催競技の唯一の団体競技。出場各チームはGUK加盟の倶楽部で、学生・生徒を除く6人(うち55歳以上3人)で構成、ベスト5人の合計スコアで優勝を争うもの。10県地区で行われた予選会には前年より1チー



ム減の計 188 倶楽部チームが参加。このうち、23 チームが決勝大会への出場権を獲得。各県地区予選では、昨年まで 15 回の優勝を誇る福岡県南部地区の「大博多カントリー倶楽部」が予選 5 位の成績で、昨年 2 位の「熊本空港カントリークラブ」が熊本県南部地区 6 位で決勝大会への出場権を逃す波乱もあった。

決勝大会のこの日は小さな雨が降ったものの気温 23 度、北西の風 3 ㍓（正午現在）とまずまずの気象条件で、開催倶楽部チームを含めた 24 チームが出場して行われた。

1 打を争う熱戦続き



福岡雷山は、4 人が 70 台をマークしたが、なかでも 1 アンダーをマークした竹本健太、72 のパープレーで回った荒川英二（47 歳）の健闘で勝利を呼び込んだ。宮崎レイクサイドは 6 人全員が大崩れすることなく安定したラウンドだったが、わずかに 1 打及ばず涙をのんだ。

司ロイヤルは昨年に続く 3 位。開催倶楽部の佐賀クラシックはベスト 5 人のスコアで 391 と健闘し司ロイヤルと並んだが、規定により 6 人全員のスコア比較で 2 打及ばず 4 位となった。トータル 394 の 5 位は志摩シーサイドカントリークラブで、小倉カントリー倶楽部と同スコアだったが、6 人目のスコア比較で 1 打上回った。

（写真は表彰されるⒺから優勝の「福岡雷山」、2 位の「宮崎レイクサイド」、3 位「司ロイヤル」の各チーム）



ベストグロス争いも僅差で竹本健太に栄冠

個人のベストグロス賞も 1 打差の争い。竹本が 4 バーディー、3 ボギーの 71 で回れば、チームメートの荒川英二が 1 イーグル、2 バーディー、2 ボギー、1 ダブルボギーの 72。荒川は九州ミッドアマチュア選手権 3 度優勝のベテラン。竹本も第 4 回九州ミッドアマで荒川をプレーオフで下して優勝している実力者。会場をホームグラウンドとする梶原憲幸（54 歳）が 2 イーグル、4 バーディー、2 ボギー、3 ダブルボギーと出入りの激しいゴルフながら 72 とまとめたが、1 打及ばなかった。



「みんなで狙って取れた」

昨年の予選落ちの悔しさを晴らしてV2の福岡雷山GC

「今回はみんなが（優勝を）狙っていたし、頑張ってくれた」。チームキャプテンの太山哲成（64歳）はこう言って、メンバーの健闘をたたえた。倶楽部で組織する研修会の内山達夫会長も「素晴らしいコースで優勝できた」と喜びを表した。

多くの強敵がいるなかで一昨年、初優勝した。ところが、昨年は福岡南部予選で6位。決勝大会に出られなかった。「だから今年は1月から選手に発破をかけてきた」そうだ。毎月の研修会（競技）のほか、キャプテン杯、理事長杯の予選スコアを加えて計8回の選考会を経てメンバーを選考してきた。だから、メンバーはライバルだったが、研修会活動の中で気が知れた仲間にもなった。「普段からみんな慣れ親しんでいたから」と太山主将だ。

福岡南部の常連で、決勝大会15回の優勝歴を誇った大博多CCが今大会は、予選落ちした。「これを機に、これからは福岡雷山の時代に？」と水を向けたが、「いやいや、周囲のレベルも上がっています。そうはいかない」と気を引き締める。油断をすると足元をさらわれる。昨年、いやという目にあっただけに、研修会の内山会長は「明日からまた、発破をかけていきます」と手綱を緩めなかった。



初めてのベストグロス賞の竹本健太

「グリーンが速かった。前半は慣れるのに時間がかかった」。広くアンジュレーションがあって、高速のグリーン。「久しぶりの速いグリーンだったが、タッチを合わせられた」という。好調のショットと合わせてただ1人のアンダーパーをマークしてのベストグロスだった。

2014年の九州ミッドアマに勝ってから、「道具にこだわるようになった」という。「合わない道具で一生懸命やってもダメ」。現在のクラブは「ドライバーもあまり曲がらなくなったし、コース戦略、マネージメントも楽になった。普段通りにやれば、優勝できるかな、という自信にもつながっている」と竹本で、自身の競技は今シーズンはこの日で終了。最後にいい結果が出て満足げだった。